

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2770801450
法人名	アミコ株式会社
事業所名	アミライフ・東住吉
所在地	〒546-0022 大阪市東住吉区住道矢田6丁目2番24号 (電話)06-6769-1513

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年3月19日	評価確定日	平成20年4月21日

## 【情報提供票より】(20年 2月14日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 5月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	21 人 常勤 7人, 非常勤 14人, 常勤換算 14.5 人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	(有) 250,000 円	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 250,000 円	有りの場合 償却の有無	(有) 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,575 円		

## (4)利用者の概要( 2 月 14日現在)

利用者人数	16 名	男性 5 名	女性 11 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	7 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 65 歳	最高 94 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 慈心会あびこ病院・長尾歯科医院等
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長居公園に程近い大阪市東住吉区の住宅地にあるピンク色の3階建の建物が当該ホームです。医療法人慈心会あびこ病院を母体とするアミコ株式会社を事業主とし、建物の1階にはデイサービス、訪問介護、ケアプランセンターが併設されています。「人と人のお付き合い」をテーマとし、地域のなかでその人らしい暮らしを安心して続けられるよう支援すると共に、「至れりつくせり」ではなく「持ちつもたれつ」の関係を大切にして、利用者と職員が協働して生活しています。母体が医療法人であり、管理者が看護師なので、医療面でも充実しています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を受けて、同区内のグループホームと連携を深め、情報交換に努めています。また介護計画に添った細やかなケアが行われ、記録もその都度記入されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価票は職員全員に用紙を配布し、記入してもらったものをまとめて管理者が作成しました。出来上がったものについては、全員に回覧し、確認してもらっています。結果については運営推進会議・職員会議等で話し合わせ、改善策に取り組んでいく予定です。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一度、家族、地域包括担当者、民生委員、自治会(婦人部長、評議員)、管理者、計画作成担当者等が参加して開催されます。参加者の負担を軽減するために、同区内の同法人グループホームと合同で行い、活動報告、研修参加の内容、外部評価の意義と取組み、終末期についても話し合わせ、毎回活発な意見交換がなされています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、個々の様子を利用者ごとに「連絡表」として送付しています。また年に一度、家族に対して意見・苦情等のアンケートに協力していただき、毎回6~7割の回答を得ています。調査結果は職員全員に報告し、話し合いが行われ、その後のケアに反映させています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入会し、回覧板も回ってきます。買い物、理美容は近隣の店に出向いていくなど、ホーム側の働きかけにより徐々に地域の理解を得られるようになり、自治会主催の敬老会や催しなどは近隣の方々に知らせてもらっています。今後は合同で行う運営推進会議を通じて地域にもっとホームをアピールする予定です。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「笑顔」「信愛」「憩い」を基に事業所独自に「人と人とのおつきあい」を理念に掲げ、利用者が住み慣れた地域で生き生きと安心して生活できる環境づくりを目指しているが、地域に向けた具体的な文言がない。	○	住み慣れた地域で暮していくことや、役割について職員で話し合い、より具体的に地域密着型サービスを意識したものを理念に付け加えることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニット共にテレビ横の一番目につく位置に理念を掲げ、毎朝のミーティングの際、「なぜ？」と問いかけることで「気づき」を与え、その人らしい生活が出来、その喜びを感じてもらえるよう日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、回覧板も回ってくる。買い物、理美容は近隣の店に出向いておこなっている。ホーム側の働きかけにより徐々に地域の理解を得られるようになり、自治会主催の敬老会や催しなどは近隣の方々に知らせてもらっている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票は職員全員に用紙を配布、記入してもらったものをまとめて管理者が作成した。出来上がったものについては、全員に回覧し、確認してもらっている。また前回の改善点についてはミーティングで話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、家族、地域包括担当者、民生委員、自治会(婦人部長、評議員)、管理者、計画作成担当者等が参加して行われている。参加者の負担を軽減するために、同区内の同法人グループホームと合同で開催している。活動報告、研修参加の内容、外部評価の意義と取組み、終末期のことが話題になったこともあり、毎回活発な意見交換がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市、区とは連携まではいたっていない。権利擁護については大阪市社会福祉協議会のあんしんサポートの担当者の助言を受けながら進めている。	○	管理者も市担当者との行き来の機会を希望しており、運営推進会議の報告書を届けるなど、直接市町村担当者と話す機会を設け、相談・情報収集の場として活用される事を期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々のホームでの暮らしぶりや健康状態を利用者ごとに「連絡表」として送付している。また来所時に意見を聞いたり状況に応じて電話連絡等している。日々の買い物については立替え払いとし、毎月請求して領収書等の原本を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族にアンケートに協力していただき毎回6~7割の回答を得ている。調査結果は職員にも報告され、その後のケアに反映させている。また玄関先に意見箱を設置したり、家族の来所時に意見を聞いたりしている。運営推進会議の議事録は閲覧用に玄関先に置いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者には各ユニットを自由に行き来してもらっているため、馴染みの職員であるためにも、ユニット毎の固定はしていない。また離職を避けるためにも、管理者は職員の意見を聞く機会を多く持つよう心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が外部研修にて得た情報を持ち帰り、伝達研修することで職員のスキルアップを図っている。また管理者が看護師であるので、ミーティングを利用して介護・医療面での知識や情報をアドバイスしているが、職員は外部の研修を受ける機会は少ない。	○	ホーム外で開催される研修の情報収集を行い、管理者のみならず、なるべく多くの職員が地域密着型サービスの従事者としての質の向上を図る上において、必要な研修を受講できる体制づくりが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内のグループホーム連絡会に入会している。「空き状況の連絡表」を回す等、活発なやりとりがなされている他、職員は大阪市グループホームネットワークの勉強会にも参加している。今年度は他ホームへの見学や研修をも働きかけていく予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には見学をしてもらい、職員や他の利用者と交流してもらっている。また職員が自宅に出向き、利用者・家族と相談しながら馴染みの関係を築いている。入居の際には自己紹介をきちんとして安心感を持ってもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から教わることも多く、いままで自宅で行ってきたことをホームでも続けられるように支援している。「至れり尽くせり」ではなく「持ちつもたれつ」の関係を保てるように、何でも協同して行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れたアセスメントを行っている。利用者・家族の希望や意向に添った支援を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎朝30分かけて行うミーティングで職員から情報収集を行ったり、家族から意見を聞くなどした結果を基に利用者主体の暮らしを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は半年に一度更新している。3ヶ月ごとにモニタリングし、評価を行っている。状態に変化のある利用者については、その都度家族と相談しながらケアのあり方を職員会議で話し合っている。また介護計画に添ったケアを行うため、日々のケア記録を細かく記入するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況に応じた個別の買物の付き添いを行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一度協力病院からの往診がある。協力医療機関との連携により適宜往診や、24時間体制で入居者の状態について連絡可能である。また希望されれば以前のかかりつけ医の継続を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書にホームの指針を掲載している。看取りを希望する利用者に対しては、かかりつけ医との連携が出来れば対応したいと考えている。日ごろから終末期については運営推進会議や職員会議の中で話し合っている。また1年に一回職員に対して終末期に対するアンケートを実施し、意識の向上を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の苗字を「さん」付けで呼ぶなど、言葉使いには気をつけている。個人の尊厳を大切に、プライバシーに関わる安易な発言があった時は、職員同士で注意しあえる関係を築いている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は大体の時間が決まっているが、好きな時間に取れるよう支援している。一人ひとりの体調に配慮しながら、利用者のペースに合わせた生活が送れるよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養管理が行き届いた食材が毎日届き、毎朝の食材は職員と一緒に買い物に出かけている。食事の準備や後片付け、味付けなどできることを一緒に行い、一緒に食卓を囲み楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日対応している。午後からの希望が多いが、時間はなるべく合わせるようにしている。拒否される利用者には一緒に食事を取りながらさりげなく誘ったり、タイミングを見ながら支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯干し、取り込み、洗濯たたみ、花の水やり、食事の下ごしらえ等手伝ってもらっている。また読書、歌、百人一首のやりとり、併設のデイサービスのマージャンに呼んでもらうなど楽しみの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候が良い時期の毎日の散歩や買い物、理容、美容院への外出等、個々の利用者の希望に応じて支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	暖かい時期はベランダや出入り口は開放している。家族の了承を得て玄関の扉は外からの防犯のため施錠している。利用者が外に行きたい時はできるだけ職員が一緒について行っている。ごみ捨ても一緒に行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	これまで一回、消防署の指導を受け昼間を想定し、利用者、職員が参加して避難訓練が行われた。避難経路の確認は定期的に行っている。今後は夜間も想定した避難訓練を予定しているが地域の協力を得られるような働きかけは行っていない。	○	運営推進会議等を利用して話し合うことで、より多くの地域住人に避難訓練への参加を呼びかけ、協力体制ができることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた栄養バランスの良い献立をもとに食事が作られている。摂取量や水分量も個々のケアチェック表に記入して管理している。水分については一日に5回は声をかけ、摂取を促している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのよく見える位置に職員手作りの布で出来たカレンダーがタペストリーとしてかかっており、とても温かさを感じさせてくれる。各ユニットに水槽があり、金魚・鯉・どじょうを飼っている。玄関前やベランダに季節の草花を植え、利用者の洗濯ものが干してある。リビングで過ごすことの多い利用者のために日中のカーテンは閉めないようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には利用者が分かりやすいように写真や似顔絵の表札がかかっている。またコタツ、アルバム、目覚まし時計、写真等自宅より馴染みのものを持ってきている。		